

シルバーまつりを開催



オープンセレモニー

第9回シルバーまつりが9月11日(日)に開催されました。午前9時の開会式では、久保清実行委員長、久喜邦康理事長の主催者挨拶に続いて、松澤一雄市議会議長から来賓を代表してご挨拶をいただきました。また、落合芳樹副議長をはじめ、浅海忠、竹内勝利、黒澤秀之、大久保進、木村隆彦各市議会議員、小暮俊明秩父公共職業安定所所長、長谷川愈旭町会長、大沢賢治秩父市社会福祉協議会事務

局長、松本直子高齢者介護課長にも来賓として、ご出席いただきました。このほか、江田治雄、山中進議員両議員にも参加していただきました。出店・バザーにも多く人が訪れ、ほぼ完売状態で大盛況となりました。



余興芸能大会

余興芸能会場では、民謡の6グループをはじめ、ヒップホップダンス、フラダンス、リズム体操、コーラス、楽器演奏のほか、南京玉すだれ、スコップ三味線などユニークな演目まで飛び出し、出演者全18組の熱演で満員のお客様に最後まで楽しんでいただきました。更に今年も横瀬町の青少年相談員のご協力により、ちびっこコーナーを設置していただき、多くの親子づれのお客様にも楽

しい時間を過ごしていただきました。



ちびっこコーナー

また、親睦会主催のバザーへのご協力ありがとうございました。売上金は市の社会福祉事業に寄付させていただきます。

出店

バザー



第9回シルバーまつりは、出

店・バザーの完売、余興芸能での満席など例年にも増して多くの市民の参加のもと、にぎやかなイベントとなりましたが、駐車場の確保等、今後検討すべき課題も認められました。

会員紹介

次の方たちが新しく仲間になりました。よろしくお願ひします。(敬称略)

七月

久米良男 堀口好広 高柳忠正

浅見勝利

八月

宮谷公子 浅見秀代 増田要子

小鹿島好子

保育サービス講習会開催

秩父ファミリー・サポート・センターでは10月7日から12月9日まで9回に亘り保育サービス講習会を開催します。

シルバー会員の方で、子育てに困っている保護者に代わってお手伝いをしたい・孫の子守をしたいなど少しでも興味をお持ちの方はぜひご参加ください。詳細は事務所にお問い合わせください。

親睦会 真田の郷

秋の日帰り旅行

目的 長野県 上田城址
日時 10月15日(土)午前7時

福祉女性会館出発

定員 40名
会費 八千円
申込み 事務所まで申し込んで
ください。先着順で定
員になり次第に締切り

秩父市と空き家適正管理に 関する協定を締結

市内には現在、約二千四百戸を超える空き家が存在し、その適正な管理は市の重要課題となつていきます。そこでセンターとしてはその解決に向け担当の危機管理課と協議を重ね、去る9月2日(金)に秩父市と空き家等の適正管理に関する協定を締結することに至りました。



空き家等の適正管理に関する協定締結式

協定の内容は次とおりです。

〈市が行う業務〉

空き家等の所有者から管理業務の相談を受けたときは、セン

ターとの契約が円滑に進むよう取次ぎを行う。広報、市ホームページ等によりセンターの空き家管理業務のPRに努める。〈センターが行う業務〉

見回り、除草、樹木の伐採・枝下ろし、植木の剪定、小修繕などの空き家管理業務を行う。

今後は市と相互に連携して行政上の課題である空き家等の適正管理に協力するとともに、シルバー自体の就業機会の拡大が図られることとなります。

南小児童に伝統の継承を

秩父音頭を指導

事業委員会では、昨年から南小学校児童に秩父音頭踊りの指導を行っています。秩父音頭の伝統を後世に伝えたいとの思いから、今年も、7月8日、8月5日の2日間、本場皆野町から講師を招聘して正調秩父音頭を習いました。

9月6日(火)には、その練習の成果を基に、南小学校児童に秩父音頭の指導を行いました。指導は、計3回行われました。

児童たちは、秩父音頭発祥の地の本格的な踊りを熱心に学んでいました。この成果は、9月17日(土)に開催される同校運動会で発表されます。

会員だより

今宮坊の仏たち

関根 敏

秩父観音霊場も一昨年は、十二年に一度の「午年総開帳」が終わり、各寺は静けさを取り戻しているように感じます。さて私こと、時には喧騒を忘れて寺社などに足を運んでおります。今回は「仏像」を自分なりに紹介したいと思います。

今宮坊は、日本百観音霊場の中でも寺院名が、「寺」、「院」、「堂」でもなく唯一「坊」と書く珍しい寺院名です。(坊は僧の住むところという意味もある)

観音堂に向かつて、左側に勢至堂(小堂)があり、中に勢至菩薩が安置されていて、一般的には宝冠の上に小さな宝瓶を載せていて、知恵の光であまねく人々を照らす菩薩と言われ、知恵の力によって救うとされています。三尊形式で安置の場合は阿弥陀如来を中央に向かつて右に観音菩薩、向かつて左に勢至菩薩が入ることが普通です。

次に観音堂の中央に本尊聖観音菩薩が安置され、立像とは異なり座る形で、左足が右足の下に隠れ右足だけが上向いて座る

形で、「半跏趺(かぶ)坐像」と言われています。本尊は「雲中出現の像」とも言われてとても美しい像です。

そして観音堂の右側に目を移すと、市指定の文化財、飛天像が安置されています。昭和33年の調査では平安時代後期(藤原時代)の作と言われていましたが、平成25年の専門家の調査で平安時代初期(9世紀)の作と判明、一木(いちぼく)造りで欠損していない状態で残っている飛天像では日本最古と言われています。顔立ちは端正で、曲線美も美しい飛天像です。ちなみに福島県勝常寺の国宝薬師如来像の光背(こうはい)に付属する飛天像と酷似しているとも言われております。また、飛天像は「十円玉平等院」の阿弥陀堂、堂内の壁にある飛天像も優れた像で良く知られています。

お知らせ8月号の訂正

2ページ事業委員会委員氏名

誤 山内賢一→正 内山賢一

お詫びし訂正します。